



1_ミニ小田川で行われたウナギのつかみ捕り。楽しそうな声が響く 2_「元気カエルで地球を救え」のブース。ゴム鉄砲でカエルを飛ばして遊びながら、環境について学ぶ子どもたち

小田川の豊かな自然で学べ、遊べ。 「元気わくわく川まつり 2015」

きれいな小田川を遊んで学ぶ「元気わくわく川まつり 2015」（同実行委員会主催）は7月19日、五十崎自治センターとミニ小田川で開かれました。

時折降る雨の中、町内外から380人の子どもが参加し、家族やボランティアスタッフを含めると1,000人以上が集まる盛大なイベントになりました。ミニ小田川で行う一部のブース以外は、場所を室内に移しての開催になりましたが、今回から内子手しごとの会の手すき和紙体験が加わり、体験ブースがさらに充実。参加者は川や環境について学びながら、ペットボトルロケットやニジマス釣りなどに挑戦しました。

毎年人気のウナギのつかみ捕りには、1回に150人を超える子どもたちが参加しました。捕った魚はその場でかば焼きにして食べられることもあり、親たちも必死。ウナギを追い回す子どもたちと一緒に、大きな歓声を上げていました。

川や自然に親しむ多彩な催しに、みんなが笑顔いっぱいに楽しんでいました。

カラスは笑うの？ 怖がるの？ 泉谷の棚田に立つおかしなにかしたち

「第3回かし作りコンテスト」（泉谷地区棚田を守る会主催、上岡満榮^{みつえ}会長）が6月28日、泉谷の棚田で開かれ、棚田オーナーや天神小学校の児童ら13組が参加しました。

約2時間の作業で、パーマ頭の浪人や三つ編みの女の子など、個性豊かなかし13体が完成。最優秀賞を受賞した三瀬裕明^{ひろあき}さんは「細部にこだわり、棚田に似合うおばあちゃんを作った」と出来栄に満足していました。



天神小学校の児童たちが作ったかし

巨木の里、小田地域で 1000年のときを感じる「巨木巡り」

「小田の里巨木巡り」（小田の里・巨樹巨木を想う会主催）が7月4日に開かれ、同会のメンバーなど25人が参加し、吉野川地区・天満神社のイチイガシや本川地区・広瀬神社のケヤキなど10カ所を巡りました。ガイド役を務めた岸田透^{とおる}さんは、逸話や昔話などを交えながら巨木の魅力を説明。参加者も子どもたちの思い出を語りながら、長い年月を経た巨木を眺めていました。



生命力を感じる巨木の根（天満神社のイチイガシ）



旗を振って出迎える皆さん。計4回運行される。

70周年を迎えた予讃線を巡る旅 JR内子駅で廿日市自治会がおもてなし

JR四国予讃線全線開通70周年記念「ええとこ南予！がいな町並み号」の運行に合わせて、JR内子駅で廿日市自治会が歓送迎のおもてなしをしています。

7月5日は約50人が参加し、「ようこそ内子町へ」と書いた横断幕やじゃばらサイダーで乗客87人を歓迎しました。「こんにちは」と声を掛ける住民に、多くの乗客がうれしそうな表情で手を振り返していました。

自分の脚を信じて進め 「神南山往復登山RUN」

「第1回神南山往復登山RUN^{ラン}」（Ryūow^{リゅうおう}ランニングクラブ主催）が7月19日、神南山で開かれました。健脚自慢の34人が参加し、龍王公園から神南山の18^{キロ}を走る上級者コースなど4つのコースから、自分の体力に合わせたコースに挑戦しました。企画した浅野みゆきさんは「走って登った神南山の眺めは格別。また開催するので、自分の脚を信じて登ってみませんか」と呼び掛けました。



フライトエリアで休憩し、元気に再出発する皆さん

夏祭りシーズン到来！ 商店街が「造り物」でおもてなし

「うちこ夏まつり」（同実行委員会主催）は7月11日、内子本町通り商店街で開かれました。

祭りの目玉となっている「造り物」は、各店舗で取り扱っている商品などを素材としてつくる飾り物で、江戸時代から続く伝統行事です。今年は20の店舗や団体が造り物審査に出展し、出来栄を競いました。

金賞にはフローリストやまおかの「錦織圭一世界の頂点へー」とキドフーズの「東京駅」が選ばれました。また内子座100周年を記念した10分の1サイズの内子座も登場。商工会青年部が屋根瓦にビール缶、壁に割り箸袋を使って制作した力作です。その他、武田商店が日用品で造った「松山城」など、工夫を凝らした作品が各店舗に並び、多くの人がその面白さを味わっていました。

イベントは「社会を明るくする運動月間」に合わせた防犯パレードを皮切りに、夏祭り美術展や芸能発表会、テレビ番組を模した逃走イベント、花火の打ち上げなどが行われ、伝統行事に花を添えました。



1_青年部が制作した内子座 2_逃走イベント。子どもたちが黒ずくめの大人から必死に逃げる 3_クワガタの造り物に興味津々 4_子どもたちがダンスを披露